20088

冠動脈バイパス術（CABG）後の急性肺障害（ARDS）に対し、VV ECMOを使用した救命例

[1]総合南東北病院

植野　恭平[1]、菅野　恵[1]、緑川　博文[1]、滝浪　学[1]、影山　理恵[1]

【目的】基礎疾患を有する手術後のARDSは40-45%の死亡率とされ重篤な合併症である。その主な死亡要因として酸素化障害と肺胞傷害があるが、人工呼吸器管理のみでは十分に治療できない場合も多い。今回、左主観部（LMT）病変に対するCABG後ARDSに対し、Venovenous extracorporeal membrane oxygenation(VV ECMO)を用いて救命した一例を経験したので報告する。【症例】76歳、男性。労作時胸痛を主訴に来院。冠動脈造影にてLMT 99%狭窄を認め準緊急でoff pump CABG ３枝を施行した。術翌日に人工呼吸器を離脱するも頻呼吸と低酸素血症を認め再挿管となったが、これでも酸素化を保てずV-V ECMOを導入した。閉鎖回路を用いて右房送血、下大静脈脱血で回路を確立した。完全に鎮静下に人工呼吸器はFiO2 0.6, 一回換気量300mlに設定し、rest lungを保つようにした。酸素化の改善を待って導入後６日目にECMOを離脱し、9日目に人工呼吸器を離脱、以降はリハビリの上28日目に独歩退院した。【結語】CABG後ARDSに対し、VV ECMO補助下に救命しえた一例を経験した。とくに心臓手術後は低心機能や不安定な循環動態、出血の問題などを有する。循環動態に対する影響の少ないVV ECMOは簡便で有用な救命措置であると考える。

日時　月　日（第　日）	ｾｯｼｮﾝ		会場		時　分～　時　分

受付番号 [　　]　　演題番号 [　　]